

AIRDO CHANNEL

「AIRDO CHANNEL」ではAIRDOが力を注ぐさまざまな取り組みをお知らせします！



AIRDOは宮城県と福島県の復興を応援しています

両県の“いま”をご紹介します。

1

宮城県〈かわまちてらす開上〉

東日本大震災で津波の被害を大きく受けた宮城県名取市開上（ゆりあげ）地区。名取市復興仮設商店街〈開上さいかい市場〉から本格的な再建を目指し、「人と街を照らす」をコンセプトとして建設された商業施設が〈かわまちてらす開上〉です。名物の赤貝やしらすを楽しめる店舗や、震災前から営業していた地元ゆかりの店も入っており、観光客が楽しめるだけでなく、地元住民が故郷の味に触れられる貴重な場所になっています。また目の前には名取川、東には開上港、太平洋、はるか西には蔵王連峰、仙台の街並みが広がっています。大震災からの復旧、そして未来に向かう復興と発展を目指す「新時代の商店街」に、ぜひお越しください。



左／かわまちてらす開上。
右／景色が楽しめるオープンテラス席。

2

福島県〈浜の駅松川浦（相馬復興市民市場）〉

水産物に対する風評を払拭し、浜のにぎわいを取り戻すため、復興のシンボルとして整備された〈浜の駅松川浦（相馬復興市民市場）〉。相馬で水揚げされた新鮮な水産物をはじめ、農産物、お土産物の販売を行っており、店内の食堂では、地元の素材にこだわった、おいしい料理を味わうことができます。また震災前、松川浦の旅館や飲食店の前には、炭火で焼かれた魚介類「浜焼き」が売られており、その香ばしい匂いと、人々が浜焼きを頬張る姿が、松川浦の日常でした。震災後、この浜焼きは途絶えてしまいましたが、地元の有志により、〈浜の駅松川浦〉で復活しました（不定期）。「見て」「食べて」「楽しめる」浜の駅松川浦に、ぜひおいでください。



左／浜の駅松川浦。
右／地元名物「浜焼き」。(写真提供：相馬市観光協会)

宮城県のおすすめ食材「せり」



「せり」は400年前にはすでに栽培していたといわれる、県を代表する伝統野菜のひとつです。9月から翌年3月ごろに出荷される「冬せり」は、豊かな香りとシャキシャキとした歯応えが特徴で、鍋やお雑煮に使われます。4月から5月ごろに出荷される「春せり」は、爽やかな香りと柔らかさが魅力で、おしんぼや浅漬けとして食されます。

写真提供：宮城県農政庁食産業振興課

福島県のおすすめスポット〈FUTABA Art District〉



福島第一原子力発電所事故により全町民が避難した双葉町で、アートの力を証明するため、2020年から元住民と協力して始まったプロジェクト〈FUTABA Art District〉。壁画だけでも笑顔があふれる町にできたら……と、2022年3月の第8弾では約20人の町の人の笑顔をJR双葉駅周辺の建物に描きました。

写真提供：OVER ALLS